



## 皆で「わくわく」した全校かくれんぼ

今日(水曜日)の「わくわくタイム」は、「全校かくれんぼ」が行われました。これは「わくわく通信102号」でお知らせした代表委員会の中で決まったのですが、学級閉鎖が続いて、延期が重なり、行うことができませんでした。今回はやっと開催することができ、嬉しく思います。

さて、帯山西小学校では、「たてわり班活動」というものがあります。今の子供たちは、休み時間や地域での子供たちの遊び集団の年齢構成は、同年齢の子供たちだけで遊んでいる姿が多いのです。昭和の世代の私の子供の頃は、異年齢で構成された遊び集団があり、いつも遊んでいる場所に行けば誰かがいて、そこで遊びが始まる、ということが日常の様子でした。

そこで、本校では意図的に異年齢の集団を構成し、6年生のリーダーシップの下、一緒に楽しく遊びながら、交流を図っています。今回は、子供たちのアイデアを最大限に生かした「全校かくれんぼ」となりました。悪の科学者「だってマン」に洗脳された帯西レンジャーが、鬼役となり、たてわり班ごとに隠れている子供たちを探します。校舎内、運動場とたてわり班のグループは息をひそめて隠れます。ただし、見つかったも腕にピンクの腕輪をしている子を探し出さないと、鬼はそのグループを見つけたことにはならないのです。かくれんぼは2回戦が行われ、私も2回戦目に鬼となり、子供たちを探し出しました。しかし、子供たちは上手に隠れ、なかなか見つけることができませんでした。

子供たちの「全校かくれんぼ」を経験しての感想です。鬼役のレンジャーは、「🟢 グリーンの心が伸びました。みんなピンクの腕輪をしている人が見つからないように、助け合って隠れていたからです。」と述べ、隠れている子供たちは「🔴 レッドの心が伸びました。新しい経験ができて、自分が成長したからです。」「🟡 イエローの心が伸びました。みんなで協力して楽しい時間になったし、役割もきちんと決めることができたからです。」と口にしていました。

たてわり班のグループには、6年生がリーダーとして入っているのですが、集団をまとめていくことで、「自分がやらなければ」と感じ、リーダーシップの育成にも繋がっています。また、下級生の子供たちは、班の中で遊びを決めるときなど、合意形成をしていくことを自然と学べるようになり、上級生を手本として、フォロワーシップを学ぶことができるのです。

なお、今回の「全校かくれんぼ」は、熊本日日新聞社、KKTの取材を受けています。熊日が明日以降の記事にするそうです。KKTは明日2日(木)の17:30~か、18:40~の番組の中で「全校かくれんぼ」の様子を紹介するそうです。報道等でも本校の活動を知ることができますよ。



狭い場所に上手に身を隠す

